

小学校英語教育担当者養成のためのコンテンツ構成

竹口 幸志 (TAKEGUCHI Koji)

鳴門教育大学

要約

教員養成課程においては、小学校免許取得の際に教育実習を行うが、時間数に限りがあることから英語教育の実践に触れられる時間の充実について指摘されている。インターネット上には、小学校英語教育や語学学習に関するコンテンツが充実しており、情報技術を活用することにより、自宅や大学においても英語教育の実践に触れる機会が作られると考える。そこで、本研究では、インターネット学習コンテンツを制作するための基礎資料として教職に求められる資質、英語教育に求められる資質について考察し、教職求められる資質に基づいた小学校英語教育担当者養成のためのコンテンツ構成について提案した。

(キーワード：英語教育，小学校，コンテンツ)

1.はじめに

2008年より外国語活動が必修化され、小学校5年生、6年生においても英語教育が行われるようになってきている。学級担任や外国語指導助手によって英語に慣れ親しむ活動や表現活動などを中心とした授業が行われている。しかし、小学校においては英語免許を所有する教員も十分に確保されておらず、英語教育に関する研修を望む教員も少なくない。教員養成課程においては、小学校の英語教育に関する科目も用意されているが、小学校教員は全教科を担当することから十分に教科専門に関する内容を学習する時間を確保することも難しい。さらに、教育実習の時間も限られることから、教育実践に関する知識・技能を学ぶことも難しい。

そこで、本研究では、自宅や学校においても英語教育に触れられるよう情報技術を用いたコンテンツの構成を行うこととした。教職員に求められる資質、英語教員に求められる資質についての考察を行い、小学校英語教員として求められる資質について明らかにする。また、インターネット上にある小学校英語教育に関するコンテンツを抽出し、コンテンツの構成について分析する。小学校英語教育として求められる資質

とコンテンツ構成の分析結果を基に、小学校英語教員として求められる資質を高めるためのコンテンツ構成について提案する。

2.小学校における英語教育の現状

小学校における英語教育の取り組みは、1998年に告示された学習指導要領の総合的な学習の時間における国際理解に関する学習の一環として外国語会話が明記されたことに始まる（ベネッセ，2011）。2008年に告示された学習指導要領では、小学校5年生、6年生を対象に外国語活動の目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱い等が記され、2011年4月には日本のすべての小学校において外国語活動が必修化されている。外国語活動として英語以外の言語を取り上げることができるよう配慮されているが、英語を取り扱うことを原則として定められていることから、小学校の外国語活動においては英語を選択されている場合が少なくない。

小学校外国語活動はその目標を「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」（文部科学省，2008）ことに置く。小学校5年生、6年生を対象に年間35単位時間、週1コマ程度実施されており、授業そのものは学級担任である **Homeroom Teacher**（以下、**HRT**）を中心に指導が行われ、外国語指導助手である **Assistant Language Teacher**（以下、**ALT**）が指導に加わっている。

具体的な外国語活動等総実施時数は、5年生1,326,034時間、6年生1,343,740時間に及び（文部科学省，2015）、進級とともに時間数がおおよそ増える傾向が伺える。このうち、**ALT**が加わる時間数は、5年生768,619時間、6年生790,231時間となっており、外国語活動等総実施時数の6割近くを**ALT**が支援している状況にある（文部科学省，2015）。小学校における教員の英語免許状の所有者数は、18,652人とされており、小学校に所属する教員で授業を担当している総数の4.7%となっている（文部科学省，2015）。このような状況から、英語に関する知識・技能を持つ**ALT**による授業支援は、小学校英語教育を行う上で重要となっている。

日本の英語教育は「基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成は重要な課題」（文部科学省，2014）として指摘される。今後、「国が示す教育・目標・内容の改善，学校における指導と評価の改善，高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善，教科書・教材の充実，学校における指導体制の充実」（文部科学省，2014）を英語教育の改善・充実方策として取り組まれることが想定される。

3.小学校英語教育の問題点

今後の英語教育の改善・充実の方策を考慮し、具体的な小学校英語教育における問題点を考える。萬谷（2015）は、小学校英語教育の特有性として、児童期という発達段階の考慮の必要性、小学校というコンテクストを加味した英語教育の必要性、担任

が全教科を受け持つことによる英語教育と他教科との関連性の考慮の必要性を挙げている。このような、小学校英語教育特有の要素を踏まえたうえで、小学校英語は、指導法、教材、教員養成・研修、評価、中学校英語への接続などの問題があることを指摘している（小学校英語教育学会，2015）。萬谷の指摘する問題に対する取り組みを先行研究から明らかにする。

指導法に関して、例えば長野（2011）は、小学校外国語活動において「子どもが思わずやってみたいと思うような活動」や「活動のよさを認めたりほめたりすることばがけやコミュニケーションを図ることのよさや大切さにかわる気付きを意図的に取り上げ、価値付けることにより、学級全体で共有できるようにする」活動を通して、積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指している。結果として、段階的に子どもを活動に巻き込むことの必要性やコミュニケーションのルールの必要性を示唆している。

教材に関しては、例えば有田（2012）は「コミュニケーション能力の素地を養う」ことを外国語活動の最終目標と定め、小学校5年生、6年生を対象に英単語を用いたゲーム、インタビューなどの教材を積極的に取り入れた生きたコミュニケーション活動を試みている。この取り組みの結果として、コミュニケーションの成立条件として相手に何かを伝えるという思いの必要性を指摘している。

教員養成・研修に関して、例えば伊東（2010）はフィンランドにおける小学校英語教育の多様性と一貫性に焦点を当て、日本の外国語教育や英語教育に対して「日本の外国語教育の複線化の推進」、「学力における格差是正の方法を根本から改める必要性」、「自律学習の推進」を指摘している。また、山森（2011）は外国語活動を担当する教員の研修・養成の具体的な方向性や内容が定まっていないことを問題点に挙げ、外国語活動における教師の英語使用に求められる知識や技能、それらを育成するための研修の方向性や内容を検討するための基礎資料として、外国語活動における教師の英語使用に関する意識と現状の実態を分析している。

評価に関して、例えば萬谷ら（2013）は小学校児童の動機づけについてのアンケート調査から、中学年から高学年にいたる発達的特徴を明らかにし、インタビュー手法を用いて児童の自己評価の実態を明らかにしている。

中学校英語への接続に関して、例えば山田（2011）は小学校における英語教育の「適切な開始年次」、「授業時数の在り方」、「小学校において英語教育が早期に実施された場合の中学校への円滑な移行のための中学校における教育内容の研究」を行い、小学校・中学校の連携のためには「楽しい英語から確かな英語への転換」が重要となることを指摘している。

以上のように、小学校英語教育における研究は、指導法、教材、教員養成・研修、評価、中学校英語への接続の観点から幅広く実施され、大学のみならず各小学校においても研究が進められていることがわかる。今後の英語教育の方向性を考慮すると、各小学校での取り組みのみではなく、教員養成課程における英語教育の取り組みが一層重要とされてくるであろう。しかし、小学校教諭は全教科を担当することから、教員養成課程においては全教科の教育内容や指導法が用意されており、英語教育に関する専門的な知識や技能を学ぶ機会を十分に用意することが難しい。このため、将来教

員を目指す学生が自主的に英語教育力を研鑽する機会の充実が求められる。

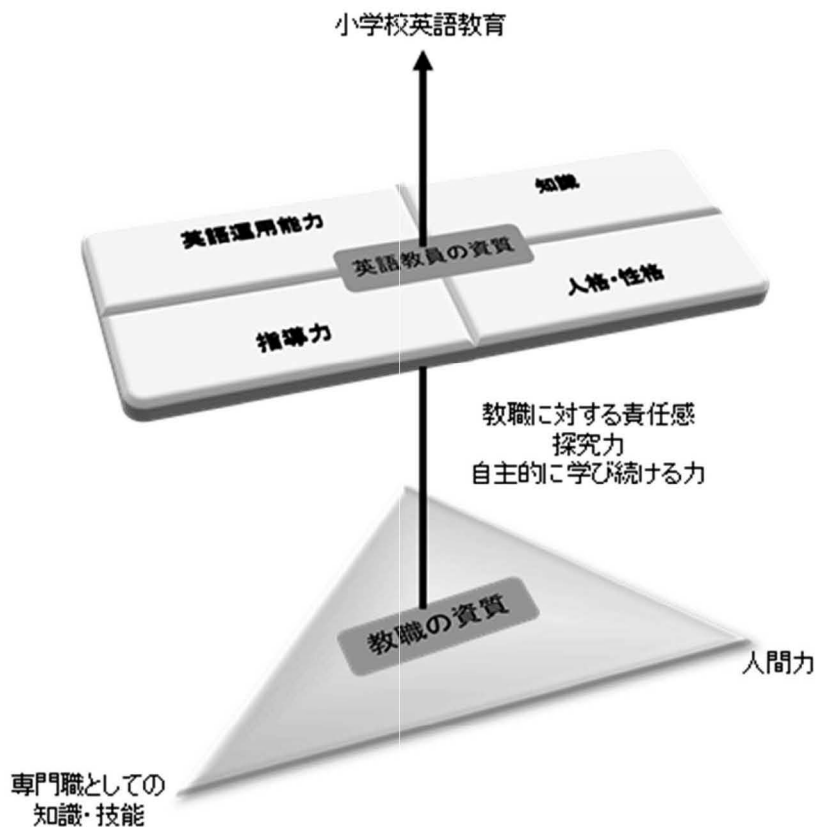
4. 小学校英語教育担当者に求められる資質

小学校の学校教員になるためには、教員免許状を取得すること、各都道府縣市町村が行う教員採用試験に合格することが求められる。教員養成課程においては、教職員免許法に基づき教職に関する科目、教科に関する科目等が設置されている。近年では、教育実習に加えて、学校インターンシップなどの取り組みも始まり、理論のみではなく、学生が実際に児童とともに学び成長する教育実践の機会の用意も進んでいる。しかし、教員養成課程において教員としての実力を伸ばすためには時間に限りがあることから、まず小学校英語教育を担当するために必要な資質を体系に捉えることとした。

小学校英語教育担当教員は、英語教育担当者でありながら、まず小学校教員であるため、小学校教員としての資質を備えることが求められる。小学校教員の資質として、文部科学省（2012）は「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）」、「専門職としての高度な知識・技能」、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」を挙げている。次に、英語教員として求められる資質について考える。英語教員に求められる資質として、金谷（1995）は英語運用能力、知識、指導力、人格・性格を挙げている。これらの小学校教員に求められる資質を土台として英語教員に求められる資質を組み合わせることにより図 1 のような小学校英語教育を担当するうえで求められる資質の構造を構築した。

学校教育法第 18 条に見られるように、小学校教育においては人間相互の関係、自主及び自律の精神、郷土及び国家の文化、日常生活に関する諸能力等を養う（文部科学省、2016）必要がある。したがって、これらの小学校教育の目標を達成するために教職に対する責任感、探究力、自主的に学び続ける力、人間力、専門職としての知識・技能など教職の資質を土台とした資質構造になる。

教員養成課程における英語教育に関する内容について、池浦は①英語教育の基礎論、②英語教育の歴史、③英語教育目的論、④英語教育方法論、⑤英語教育教材論、⑥英語科教育課程論、⑦英語教育評価論、⑧英語教育学習者論、⑨英語教育教師論を扱うことを提案している（金谷、1995）。同様に若林（1994）は、英語学・英米文学・英語コミュニケーション・比較文化のそれぞれの観点から講義の内容を提案している。現在の小学校教員養成課程の英語教育では英語科教育法、英語コミュニケーション、文化に関する内容が取り扱われる。さらに、教育実習では小学校で行われる英語教育の実情に触れることができる。



(文部科学省¹²⁾と金谷¹³⁾をもとに筆者作成)

図1 小学校英語教育を担当者の資質構造

これらのことから英語教員の資質である英語運用能力、知識、指導力、人格・性格を養う内容が整えられていることがわかる。しかし、その教育実習は1か月程度の期間で行われるため、十分に英語教育の実践に触れることが難しく、図1の小学校英語教育を担当するうえで求められる資質構造にある小学校教員としての人間力、英語担当者としての指導力を十分に磨く機会が用意されているとは言い難い。

そこで、小学校という場所に限られず、大学や自宅においても小学校教員としての人間力、英語担当者としての指導力を磨くことができるよう、情報技術を活用することによる解決策について検討することとする。

5. 小学校英語教育に関するコンテンツ

インターネット上には、小学校英語教育に関連する教材が多数見られる。例えば、英語教育協議会(2016)では、英語教員のためのポータルサイトを開設しており、英語教育教材、授業実践事例や指導案、英語教育に関するニュース、専門家の話、指導力を向上させるための研修情報、ALTのための英語教育に関する資料などが用意されている。また、日本放送協会(2016)では、NHK for Schoolを開設しており、表現活動を中心とした動画教材が用意されており、英語のヒヤリング機能や発音練習の場面

など児童が自主的に学ぶことができる仕組みとなっている。また、各動画教材が学習指導要領とリンクしており、教員も授業教材として利用することができる。さらに、千葉県総合教育センター（2016）では、若手教員の声を集めた授業ガイドとして授業テクニカルアドバイスを用意しており、外国語活動に関して寄せられた質問に対する回答を掲載しており、外国語活動の推進を図っている。また、小学校英語教育教材として **Hi, Friends** を用いた指導案を例示している。

上記のようなコンテンツ構成要素を調べると、小学校英語教育に関するコンテンツは、学習者を対象としたコンテンツ、教員を対象としたコンテンツに分類することができる。学習者を対象としたコンテンツは、英語に慣れ親しむものや英語表現を学ぶものから構成されるものが少なくないことがわかった。教員を対象としたコンテンツは、授業実践事例や指導案、英語教育に関するニュース、専門家の話、指導力を向上させるための研修情報から構成されるものが少なくないことがわかった。

他方、語学としての英語学習を支援するコンテンツも見られる。例えば、日本放送協会（2016）では、ゴグルを開設しており、英単語や熟語、文法や発音などの語学学習教材が用意されている。学習者は単語や熟語の検索、熟語や英会話フレーズの和訳問題や英訳問題に取り組むことができる。また、学習者が気に入った英語フレーズを登録して問題集を作ることが可能となっており、学習者同士で問題を出しあい学習を深められるよう仕組みとなっている。また、英語喫茶（2016）では、英文法、英会話表現に関する説明が豊富に用意されている。説明後には知識・理解の定着を測る確認問題が用意されており、学習者は英語文法や英会話表現の学びを深められる仕組みとなっている。

語学としての英語学習を支援するコンテンツの構成要素を調べると、語学学習を対象としたコンテンツは、英単語、熟語、文法、フレーズの説明や問題で構成されるものが少なくないことがわかった。英単語、熟語、文法、フレーズ等の説明後、学習者の知識・理解の定着を測るための確認問題も用意されており、学習者が自主的に反復して学習することができる仕組みとなっていることがわかった。さらに、学習者同士の交流場所も用意されており、学習者の学習動機や興味関心を高めるよう工夫されていることがわかった。

このように、小学校英語教育のみならず語学学習の観点からも様々なコンテンツが用意されており、学習者は各々の学習動機に基づいて学習することができる仕組みが整えられている。しかし、コンテンツ構成要素から授業実践や指導力などの英語運用能力、英単語や熟語文法などの知識に関するコンテンツは充実しているが、小学校英語教員としての責任感や指導力を高めるためのコンテンツは開発の余地が残されている。そこで、これらのカテゴリーに加えて、小学校の英語担当者としての現状を学び、責任感や英語指導力を高めるためのコンテンツ構成を提案する。

6. 小学校の英語担当者としての現状を学び、 責任感や英語指導力を高めるためのコンテンツ構成

小学校英語教育のコンテンツ構成と語学学習のコンテンツ構成を明らかにした。こ

これらのコンテンツ構成に対して、教職に求められる資質と英語教員に求められる資質の観点から、小学校の英語担当者としての現状を学び、責任感や英語指導力を高めるためのコンテンツ構成要素の有無を明らかにする。

まず、小学校英語教育のコンテンツ構成に対して分析を行った。縦軸には、教職に求められる資質と英語教員に求められる資質を配置した。横軸には、小学校英語教育の構成コンテンツとして授業実践事例、指導案、英語教育ニュース、専門家の話を配置した。これらの構成コンテンツに対して教職に求められる資質、英語教員に求められる資質に該当するものに丸印をつけた。結果を表 1 に示す。

表 1. 小学校英語教育コンテンツ構成の分析結果

資質	資質の具体	授業実践事例	指導案	英語教育ニュース	専門家の話
教職 資質	教職に対する責任感 探究力 自主的に学び続ける力	○		○	○
	人間力				○
	専門職としての 知識・技能	○	○	○	○
英語教員 資質	英語運用力			○	○
	知識	○	○	○	○
	指導力	○	○	○	○
	人格・性格				○

小学校英語教育コンテンツの構成においては、教職に対する責任感・探究力・自主的に学び続ける力、専門職としての知識・技能、知識、指導力の資質を高めるという特徴があることがわかる。他方、人間力、人格・性格についての資質を高める要素が充分ではないことがわかる。これは小学校英語教育コンテンツが、小学校における英語教育指導を担当する教員を支援することに重点が置かれているためと考えられる。次に、語学学習コンテンツ構成に対して、教職に求められる資質と英語教員に求められる資質の観点から分析を行った。結果を表 2 に示す。

語学学習コンテンツ構成においては、専門職としての知識・技能、英語運用力、知識の資質を高めるという特徴があることがわかる。他方、教職に対する責任感・探究力・自主的に学び続ける力、人間力、指導力、人格・性格についての資質を高める要素が充分ではないことがわかる。これは、語学学習コンテンツが言葉としての英語を実際に扱うことができるよう支援する仕組みとなっているためと考えられる。

小学校英語教育コンテンツの構成と語学学習コンテンツの構成の分析から、人間力や人格・性格に関する資質を高めるコンテンツが必要になることがわかる。文部科学省は人間力について「豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力」を挙げている。そこで、この人間力を基に人間力向上の観点から小学校英語教育担当者人間力養成のためのコンテンツ構成を考えた。表 3 に結果を示す。

表 2. 語学学習コンテンツ構成の分析結果

資質	資質の具体	英単語	熟語	文法	英会話
教職 資質	教職に対する責任感 探究力 自主的に学び続ける力				
	人間力				
	専門職としての 知識・技能	○	○	○	○
英語教員 資質	英語運用力	○	○	○	○
	知識	○	○	○	○
	指導力				
	人格・性格				

表 3. 教職としての人間力を高めるためのコンテンツ構成

教職としての人間力を 高めるためのコンテンツ構成	教員になろうと思った理由
	英語教育指導者としてのストレスの管理
	仕事の上で大切にしていること
	教員になって思うこと
	教員になる前となった後で感じるギャップ
	英語教育指導者としての悩み, つまずき
	教員としての楽しさ, 喜び
	教員としての苦勞
	教員の魅力とやりがい
	担任の仕事内容
	担任の難しさ
	専門の教科教育
	日々の英語授業で大切にしていること
	授業内容
	授業をとおして生徒に伝えたいこと

教職に就いて直面する課題, 教職を続けていく上での自己管理, 働き方, 自己研鑽に関する内容になる。教員養成課程に在学する学生にとっては, 実際に小学校で働いていないために抱かれる疑問としては妥当な内容となっており, これから教員を目指

す学生に求められる職業観や勤労観に関する内容とも考えられる。

このように、小学校英語教育コンテンツ構成と語学学習コンテンツの構成の分析から小学校の英語担当者としての現状を学び、責任感や英語指導力を高めるためのコンテンツ構成として人間力の資質を基に教職としての人間力を高めるためのコンテンツ構成を導出することができた。

6.おわりに

本研究においては、小学校英語教育における問題について概観し、教育実習における問題点として時間数が限られた中で小学校教員としての責任感、英語担当者としての指導力を十分に磨く場面を充実させる必要性があることを指摘した。そこで、教職に求められる資質、英語教員に求められる資質を基に、小学校英語教育コンテンツ、語学学習コンテンツを分析し、小学校英語教育担当者としての人間力を高めるためのコンテンツ構成を提案した。今後の課題は、今回提案した教職としての人間力を高めるためのコンテンツ構成を基に実際の小学校教員を対象に情報を収集しコンテンツを完成させることにある。また、今回提案した教職としての人間力を高めるためのコンテンツ構成の構成要素となる各々の項目の妥当性も実用化したコンテンツの利用結果から検証する必要がある。

参考文献

- ベネッセ (2011) 「新学習指導要領のポイント：小学校での「外国語活動」はこうなる！」
<http://benesse.jp/blog/20110224/p1.html>
- 文部科学省 (2008) 「小学校学習指導要領」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_012.pdf
- 文部科学省 (2015) 「平成 26 年度公立小学校における英語教育実施状況調査」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/06/04/1358566_04_1.pdf
- 文部科学省 (2014) 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告 ～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm
- 小学校英語教育学会 (2015) 「ようこそ小学校英語教育学会へ 会長挨拶」
<http://www.e-jes.org/>
- 長野仁志(2011)「英語活動における自分の『知』を創り出す子ども」、『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第 2 号, 49-57.
- 有田桃子(2012)「毎日がサプライズを目指して - 『Hi, friends!』を用いた授業実践の報告から-」, 『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第 3 号, 35-42.
- 伊東治己(2010)「フィンランドにおける小学校英語教育 -その多様性と一貫性に焦点

- を当てて-」, 『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第 1 号, 7-20.
- 山森直人(2011)「外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査」, 『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第 2 号, 9-18.
- 萬谷隆一, 泉恵美子, アレン玉井光江, 長沼君主, 田緑眞弓, 大田亜紀, 森本敦子, 島崎貴代(2013)外国語活動の評価方法に関する研究 -発達段階を意識した評価のあり方-, 『小学校英語教育学会学会誌』, 第 13 号, 212-226.
- 山田王代(2011)「英語教育における小中連携 -楽しい活動から豊かな表現へ-」, 『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』, 第 2 号, 39-48.
- 文部科学省(2012)「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (答申)」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf
- 金谷憲編(1995)「英語教師に求められる能力・資質」, 『英語教師論 -英語教師の能力・役割を科学する-』, 河源社.
- 文部科学省 (2016)「学校教育法における各学校種の目的・目標 (抜粋)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/06060509/004.htm
- 若林俊輔(1994)「現在の英語教員養成システム」, 『英教』 11 月号, 第 43 号, 第 9 巻, 20-22.
- 英語教育協議会 (2016)「えいごネット」
http://www.eigo-net.jp/topics/ask_expert/ (参照日: 2016 年 1 月 11 日)
- 日本放送協会 (2016)「NHK for School」
<http://www.nhk.or.jp/school/>
- 千葉県総合教育センター (2016)「授業テクニカルアドバイス」
http://db.ice.or.jp/nc/index.php?action=pages_view_main&block_id=695&page_id=526&active_action=announcement_view_main_init#_695
- 日本放送協会 (2016)「ゴガクル」
<http://gogakuru.com/index.html>
- 英語喫茶～英語・英文法・英会話～ (2016)「英語喫茶」
<http://www.englishcafe.jp/>